



# 人と野生鳥獣の共生に向けた取組



くらし・環境部 環境局

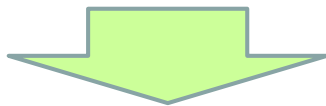
## 中山間地域や森林地域の社会情勢の変化

中山間地域などでは過疎化や農林業の担い手の減少等により、ニホンジカなどの野生鳥獣が増加して、その生息域が拡大、生態系への影響や農林業被害が増加

中山間地域の過疎化

農林業の担い手の減少・高齢化

荒廃した農地・森林の拡大



野生鳥獣の増加・生息域の拡大

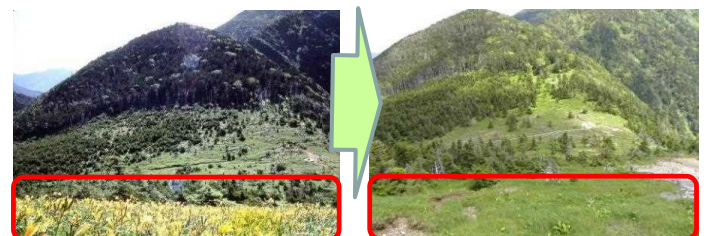
問題

生態系への影響

農林業被害の増加



樹皮を剥がされたミカンの木



ニホンジカの過食圧により消滅したニッコウキスゲの群落



# ニホンジカの推定生息頭数・捕獲頭数及び農林業被害額の推移

令和4年度のニホンジカの推定生息頭数は、伊豆地域はピーク時の42%、富士地域は24%減少(全国は16%減少)、捕獲を強化した効果が発現  
一方、農林業被害額は、ピーク時から半減したが、近年は、高止まりで推移

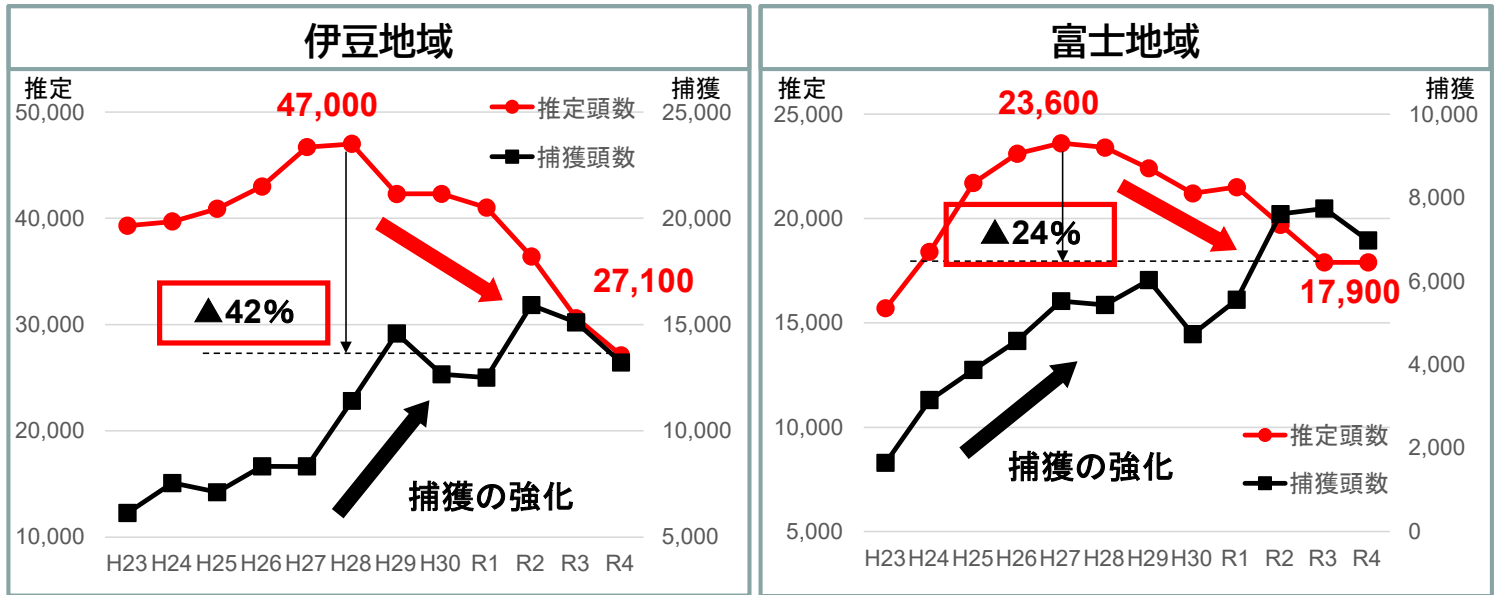


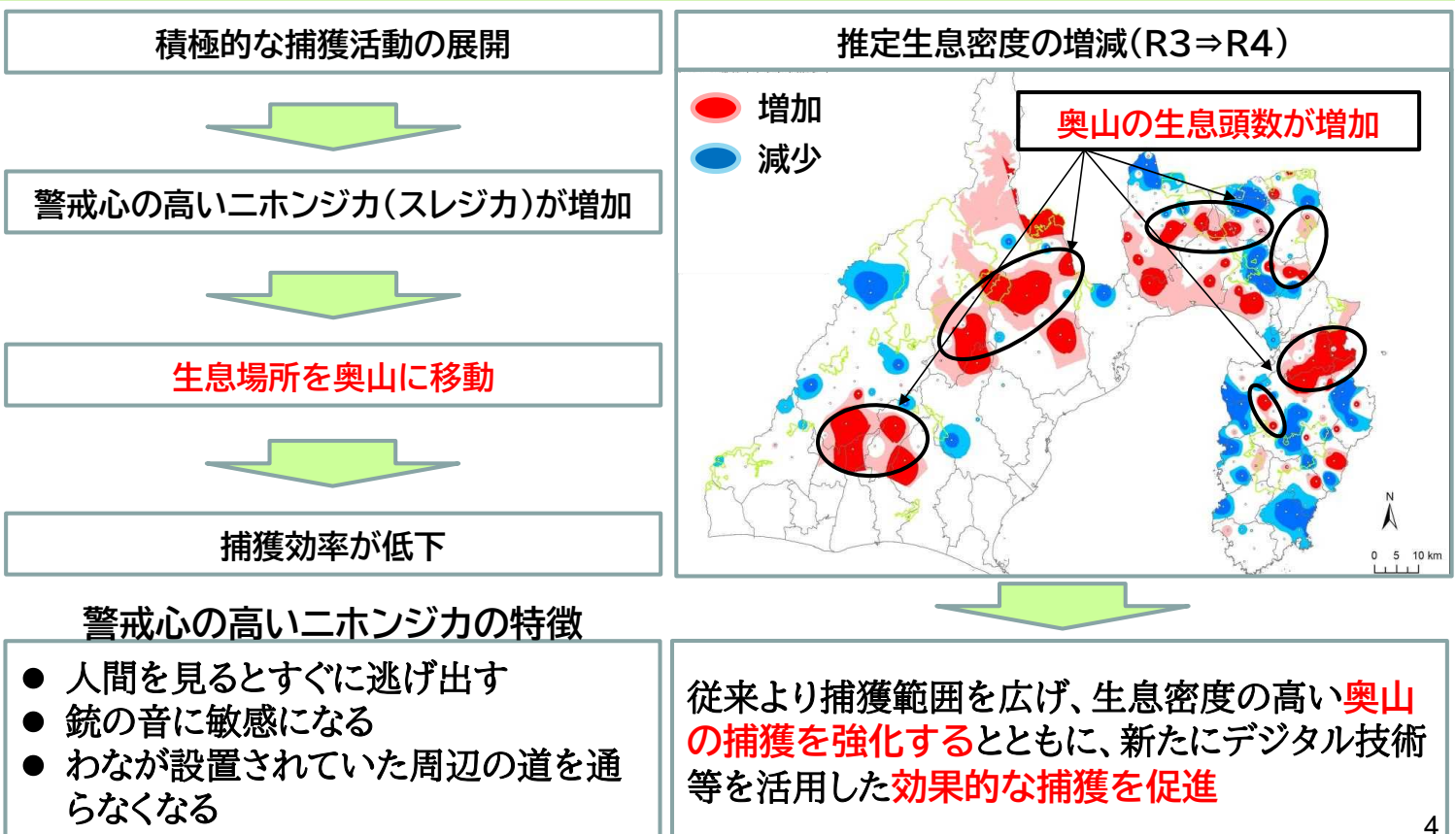
図1 ニホンジカの推定生息頭数と捕獲頭数の推移(単位:頭)

年	平成21	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
被害額	165	126	77	69	69	80	77	83

表1 ニホンジカによる農林業被害の推移(単位:百万円)

## ニホンジカ捕獲の課題

捕獲活動を積極的に展開してきたことにより、ニホンジカの警戒心が高まり、生息場所が奥山に移動し、捕獲がこれまでのようには進まなくなっている状況



# 奥山での捕獲の強化

生息密度が高い**奥山において**、捕獲区域の新設や範囲の拡大、捕獲頭数の増加、隣接県等関係機関との連携等により、**捕獲業務を強化**

## 捕獲区域の新設・拡大

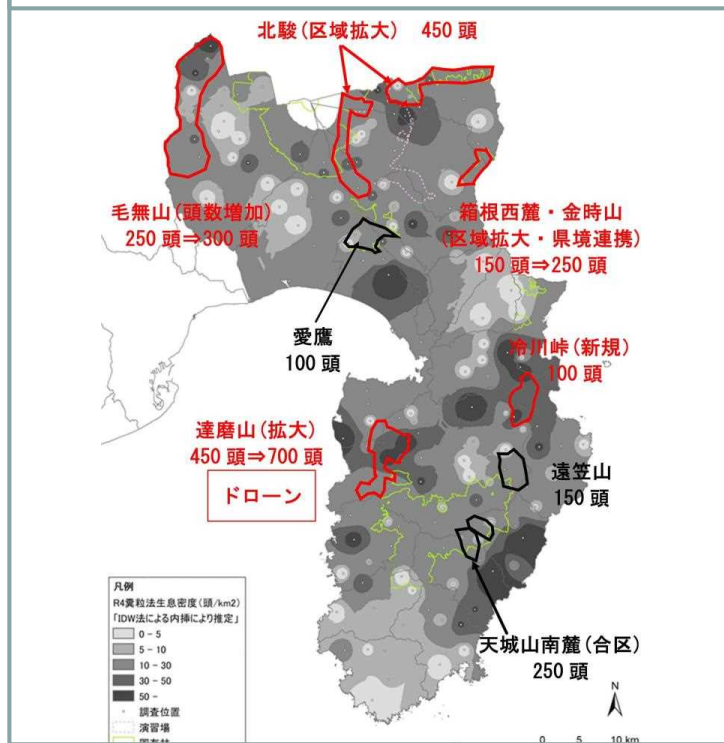


図2 生息密度及び捕獲困難地実施区域図

## 隣接県等関係機関との連携

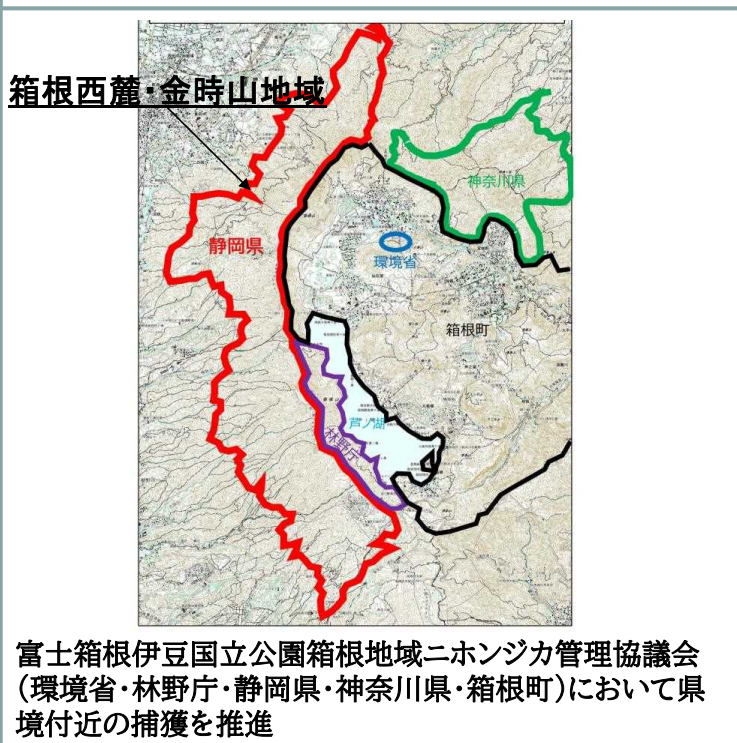
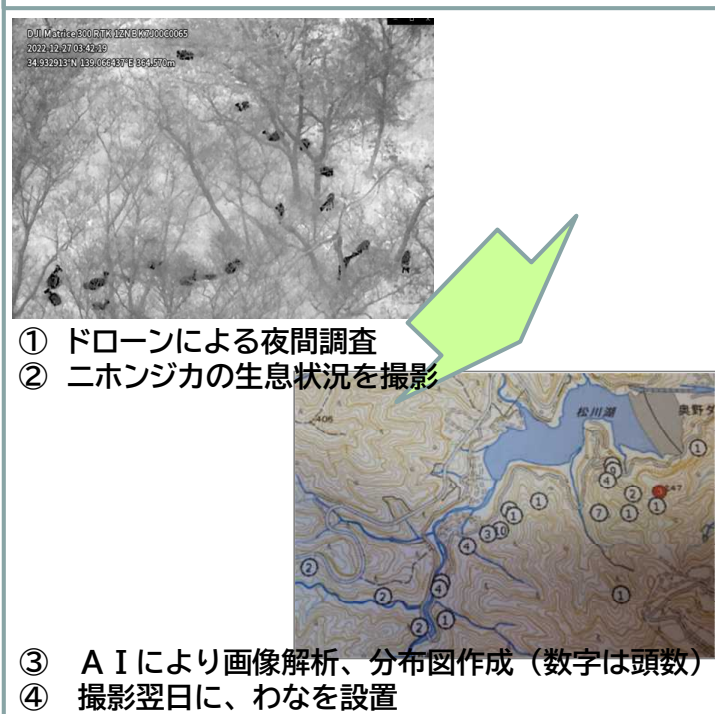


図3 富士箱根伊豆国立公園箱根地域ニホンジカ管理区域図5

# 新たな技術を活用した効果的な捕獲

- 捕獲活動に**ドローン**を活用した結果、仕掛けたわなにニホンジカが掛かった割合(捕獲効率)は、**県平均と比較して、約1.6倍に向上**
- 民間会社と共同開発した**携帯情報アプリ「HUNTER GO!**」を活用し、蓄積した捕獲情報を利用し、**戦略的な捕獲活動を促進**

## ドローンによる生息状況調査



## 携帯情報アプリの活用





# 頻発するクマ出没への対策

今年度のクマの出没件数は108件となり、統計のある平成25年度以降で最多行動範囲や推定生息頭数などを調査し、適切な保護と管理のあり方を検討

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
出没件数	24	15	25	24	53	24	41	82	21	108
人身被害件数	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0

表2 ツキノワグマの出没件数及び人身被害件数の推移



図4 ツキノワグマの出没状況マップ

**クマ 出没注意**

静岡県では、南アルプスや富士山周辺の山間部にツキノワグマが生息しています。秋や冬にはエサを求めて活動が活発化し、その他の地域にも出没することがあります。

**クマに出会わないために**  
クマは臆病な生き物です。山や森に入るときは、鈴や笛、ラジオなどで自分の存在を知らせましょう。  
残飯や生ごみは必ず持ち帰りましょう。

**クマに出会ってしまったら**  
クマは逃げるものを追う習性があります。クマに背を向けずに、後ずさりしてクマから離れましょう。  
子グマの近くには親グマがいる可能性が高いので、できるだけ早く遠ざかりましょう。

クマを目撃したら、まずは市町に連絡してください

クマの目撃情報は静岡県ホームページに掲載

静岡県自然保護課

図5 ツキノワグマ注意の啓発チラシ